

NJ素流協 News

令和6年11月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

令和6年11月10日

第238号

ノースジャパン素材流通協同組合

令和6年度先進地視察研修 in 岐阜県

10月28日（月）～30日（水）、組合員10名、賛助会員3名、N J 素流協6名、合計19名の参加により、岐阜県にて令和6年度先進地視察研修を行いました。

初日の28日は、《視察①》株式会社

金山チップセンターを視察しました。

同社は昭和44年に創業し、木材チップの生産・販売を中心とした事業を行っています。原木や木くず等から生産されたチップは主に製紙原料やバイオマス発電燃料として出荷されています。

チップ工場で原木破碎の様子を見学した後、原木の中から良質な材を選別して価値を活かす取り組みについて説明いただきました。

原木はチップ用として入荷するため大径材はなく、ストックできる良材はごくわずかです。そのストックを製材し、デザイナーと共同でブランドを立ち上げ家具の製作・販売を行っています。



ストックされた良材から製作された品々

樹種を用いてデザインに昇華させた家具は、ウッドファニチャージャパンアワードに選出され海外の展示会に出品したそうです。実際に見せていただいた、端材から製作された小物類はどれも美しく、何もしなければチップになってしまはずだった

飛騨地域では従来、並材を山土場から大企業へチップ材として直送する流通が一般的で、用材率はわずか数パーセントでした。原木の単価底上げと地域内流通を目指し、地元森林組合とも協力して伐採から造材・仕分けまで地域材活用の仕組みを整備してきており、現在はこの中間市場の仕組みを整えている段階とのことです。森林組合が伐採した原木をストックし、製材所があることに加え、温水式乾燥機を設置したことでの、この場で製材・乾燥までまとめて商談ができるようになりました。川下の新たな需要づくりのために、原木の規格作りも行っています。

とは思えないものばかりでした。

翌29日、まず訪問したのは《視察②》株式会社やまかわ製材舎、株式会社西野製材所です。



地域材流通の拠点としての中間工場

端材等を燃料とする温水式乾燥機は、小型であることで逆に小ロットのオーダーに品質を保ったまま対応できること。研究施設と連携し、地域材の基礎データを集めているそうです。

中間土場の間借り業者も多く、ストックの材はほとんど納入先が決まっていふことで、この土場が地域材流通の拠点として活きていることを実感しました。地域を挙げた取り組みにより、現在は、用材率が數十パーセントまで上昇しているそうです。

中間土場からバスで移動して2分ほどの場所に、やまかわ製材舎があります。同社は、数年前に休眠状態から再興された製材所で、原木を先の中間土場から搬入し、板挽きを行っています。

地域内の広葉樹材の安定供給を目指し、今後社員を増やす予定とのことです。また、製材所にとつて不可欠な機械業者が地域からなくならないよう、機械業者と連携を始めたそうで

A photograph showing two workers in a workshop or factory setting, wearing safety vests and hard hats, examining a large stack of wooden planks. The wood has a distinct reddish-brown color, characteristic of treated timber.

めに配達される仕組みになつていま
す。また、工場内に流れる音楽で休
憩や清掃を合図していました。

人材育成を図る取組みとして、各
種技能検定の受験料を助成したり講
習会を開催したり、会社としてバッ
クアップを行つてているそうです。資
格保持者の名札が数多く掲示されて
いました。

雨足がかなり強まる中、《視察④》
オーネクヴィレッジ株式会社へ向かい
ました。

昼食をはさんで次に訪問したのは、
『視察③』飛騨産業株式会社です。
大正9年にブナ曲木家具の製造で
創業した、木製家具メーカーです。
現在製作する家具の原木はほとんど
が外材ですが、26年前より国産材活
用の取り組みを始め、材質的に家具
には不向きだったスギの圧縮技術を
開発しました。

昭和49年創業、国産広葉樹を使用した木工品製作を行っています。「お椀から建物まで」という創業時からの理念を受け継ぎ、常時数十種の樹種を取扱い、製作する品目は100種余り。「適材適所」を念頭に、樹種ごとの適性を見極めて部材に加工するため、一つのアイテムに複数の樹種が使われることがほとんどだそうです。



圧縮スギを触らせていただきました

社員食堂の圧縮スギの床板は、3年
でひつかり、跡がつかない。実際、
この技術により、厚みは半分にな
りますが、その分強度が増し、材面
を爪でひつかいてもハイヒールで歩
くには向かなかったスギの圧縮技術を
用の取り組みを始め、材質的に家具
には向きだつたスギの圧縮技術を
開発しました。

家具工場ではトヨタ方式を取り入れ、徹底した効率化を図っています。一人の職人が一步でも効率よく動けるよう機械の配置を工夫したり、2時間ごとの作業計画をたてて時間単位で進捗を管理したり、梱包資材等も最小限の在庫で管理を行い、こま

余り「適材適所」を念頭に樹種ごとの適性を見極めて部材に加工するため、一つのアイテムに複数の樹種が使われることがほとんどだそうです。また、製作の過程で金属の部品は使わず、伝統工法の技術的な仕組みを条件に合わせてアレンジし、木組みに使用しているとのこと。「100



ショールームにて

年持つ家具」を目指し、メンテナンスすることを踏まえてのことだそうですが、それらの工夫もデザインとなっています。近年は、群馬県みなかみ町と協定を結び、自伐型林業を経済活動として支える取り組みを行っています。伐採されるのは、ほとんど小径木ですが、原木として買い取り、製品に作るものに合わせて原木を調達するのではなく、出た原木に合わせて作れるものを作るやり方が、結果として原木の歩留まりを上げて活かし

伐採されるのは、ほとんど小径木ですが、原木として買い取り、製品に作るものに合わせて原木を調達するのではなく、出た原木に合わせて作れるものを作るやり方が、結果と

して伐採されるのは、ほとんど小径木ですが、原木として買い取り、製品に

するのではなく、出た原木に合わせて作れるものを作るやり方が、結果と

して伐採されるのは、ほとんど小径木ですが、原木として買い取り、製品に

するのではなく、出た原木に合わせて作れるものを作るやり方が、結果と

して伐採されるのは、ほとんど小径木ですが、原木として買い取り、製品に



屋根型欧洲型作業道視察の様子

乗用車も快適に走行できるとのこと。また、横断排水は暗渠を基本とし、集水枠の位置や形状を、現地に合わせて工夫するそうです。盛土法面には路面からの分散された排水があるためか、実生のスギが生育していました。

現場発生材を用いて、いかに経費をかけず壊れない道を作るか。水処理のための基本構造と丁寧な土工、この作業道は全く被害がなかったそうです。開設後16年間、大規模な補修を行っていないと…。その理由は、



高山陣屋にて集合写真 皆さんお疲れ様でした！

各視察先とも、独自の先進的な取り組みが強く印象に残りました。ご多忙の折、ご対応いただいた視察先ご担当の方々に、あらためて御礼申し上げます。

クッブ・ジャパン・オープン2024 in 岩手住田町に参加してきました！

令和6年10月6日（日）に、岩手県住田町で開催された「クッブ・ジャパン・オープン2024 in 岩手住田町」に今年も参加してきました。

ノースジャパン素材流通協同組合は、役職員4名＆青年部会4名の合

同チームでエントリーしました。

昨年は、予選リーグを勝ち抜くことができましたが、今年は残念ながら予選リーグで2敗…。

しかし、その後の3部交流トーナメント（各予選リーグで3位だったチームによるトーナメント）で1勝したため、「3部交流トーナメント3位」という結果でした！



理事長、真剣な表情で投げます！

老若男女問わず、そして運動が苦手という方でもプレイできるクソブ、来年も楽しみです！



今年は青年部と一緒に出場！

ウッドチェンジ学習会 2024を開催

いあるものを木質化――

10月8日（火）、16日（水）の2日間、N J 素流協事務所において、木材利用月間の10月に合わせて「ウッドチェンジ学習会」を行い、2日間を通じて総勢15名の参加がありました。

● 参加団体
● （国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所
● 種センター 東北育種場

● 岩手県 農林水産部林業振興課
● 盛岡市 農林部林政課
● 岩手大学 農学部
● 盛岡市 農業技術普及課
● 林野庁 東北森林管理局 盛岡森林管理署
● （一社）日本森林技術協会 東北事務所

この学習会は、非木材製品に木質シートによる表装を施することで、木材製品の良さを感じながら、次期の備品は木製にという機運を醸成する目的で企画し、昨年から行っている取り組みです。

開始に当たり、鈴木理事長から、「木材利用が叫ばれていますが、まだ使えるものを捨ててまで木質化をするのは非常にもったいない話です。そこで、木のシートを貼って耐用年数いっぱい今まで使い、次に購入する際は木製品にするということを勧めたい」と挨拶がありました。

N J 素流協事務所のアルミ製キャビネットや、参加者が持参した備品に木質シートを貼り、その手触りの良さや見た目の柔らかさに歓声が上がりました。



キャビネット（左上）、ポール（左下）、ゴミ箱（右上）、ブックエンド（右下）、等様々ウッドチェンジ！

中国木材株能代工場 第一期完成披露式に出席しました

10月11日（金）、秋田県能代市において、中国木材株式会社能代工場の第1期完成披露式が行われ、当組合から、鈴木理事長、小野寺営業企画部長が参加しました。

製材棟・加工集成材棟の工場見学の後、式典が行われ、秋田県内では初めてとなる「建築物木材利用促進協定」への調印式が秋田県・能代市・中国木材の3者間で行われました。

改正クリーンウッド 法制度説明会における 事例報告

10月10日（木）、仙台市において林野庁及び一般社団法人全国木材組合連合会が主催する改正クリーンウッド法の制度説明会及び指導者養成講座が開催されました。本説明会等は全国4地域で開催され、今回は主に北海道・東北地域を対象としたものです。

青年部会「令和6年度 第2回視察研修」を開催

本説明会等は今後も他地域で開催が予定されており、オンライン聴講も可能となっています。各会場への参加については「全国木材組合連合会」ホームページよりお申し込みが可能です。

青年部会は、10月19日（土）、20日（日）の2日間、石川県及び福井県において、今年度の第2回視察研修を開催し、会員6名が参加しました。19日は、石川県小松市の「こまつ」の社を視察しました。本施設は、林業業界でも活躍している建設・鉱山機械メーカー「コマツ」の歴史や様々な技術を知ることができる施設として2011年に誕生しました。2021年の創立100年を機に、子供向けの展示・体験ブース等を更



皆さん、お疲れ様でした!!

当組合から吉田経営企画課長が出席し、クリーンウッド法に係る登録木材関連事業者の取組事例として、当組合で実施している合法性確認の取組について報告しました。

20日は、福井県勝山市のスキー・ジャム勝山で開催された「2024森林・林業・環境機械展示実演会」を視察し、最新の林業機械等に関する情報収集、青年部会主催の森林・林業普及啓発イベント「げんき森林（モリ）モリフェスティバル」に協力をおいたいたメーカー・販売店との情報交換等を行いました。



林野庁長官より表彰を受ける坪晃理事

全素協 第147回理事会・創立50周年記念式典に参加

△坪理事が表彰を受けました

10月24日（木）、東京都内において全国素材生産業協同組合連合会第47回理事会及び全素協創立50周年記念式典が開催され、当組合から、鈴木理事長、一条参与兼経営企画管理部長が出席しました。

式典では、2024ミス日本みどりの大天使の安藤きらりさんによる司会進行、感謝状の贈呈が行われました。記念講演は、林材ライターの赤堀楠雄氏による「答えは山にある」と題した。記念講演は、林材ライターの赤堀楠雄氏による「答えは山にある」と題した。

林野庁長官より表彰を受ける坪晃理事

誇れる森林国に」が行われました。

感謝状が授与された11名のうち、当組合の理事である坪晃（株式会社坪造林 代表取締役）氏に、素材生産・再造林の取組みや地域貢献等に対し、林野庁長官感謝状が授与されました。坪氏は、ご尊父の坪藤次郎氏と、親子2代で林野庁長官からの賞を受賞しています。

今年も三重県と岩手県の林業アカデミーで研修を実施

当組合では、各県の林業アカデミー及び大학교等における林業就業に向けた研修に積極的に協力しています。

◎みえ森林・林業アカデミー

10月18日（金）、みえ森林・林業ア

カデミー（三重県林業研究所内）において、鈴木理事長が「川上と川下

をつなぐイノベーション 素材流通の現場からみる現状と課題」と題して木材流通に関する講義を行いました。

同日には、当組合員である有限会

社松田林業様による講義も行われま

した。

◎いわて林業アカデミー

10月23～24日の2日間、鈴木理事長による「丸太の流通と採材方法」の講義や、「中間土場の活用・林業用機械の重機搬送」が現地研修として行われ、原木運送の効率化を図るために中間土場の活用や、素材生産現場まで重機搬送する重要性・留意点などの説明があり、実際にセルフローダー（重機運搬車）にバックホールの積込み体験を行いました。

また、「業務用広葉樹の造材のコツ」として、薪の種類（長さ・形）や用途（業務用・燃料）等の説明をしたあとに、自動薪割り機を用いて薪の生産（原木から製品）の一連の作業を体験しました。

さらに、素材生産に重要な効率化「流通をポイントとした皆伐」として、素材生産現場から中間土場に集積された丸太を各工場向けに仕分けしている様子を視察し、実際に検知や丸太の用途についての研修を行いました。



実践的な研修になりました！

この度の研修において、株式会社宝栄運輸様、MG企画様及び有限会社松田林業様には、研修準備等のご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

宝栄運輸様、MG企画様及び有限会社松田林業様には、研修準備等のご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

令和6年度 東北地区原木トラック運送協議会と東北森林管理局（林道PT）の合同現地検討会を開催しました

当組合が事務局を務める東北地区原木トラック運送協議会（会長 松田光治氏）は、10月29日（火）～30（水）日の2日間、宮城県白石市不忘山国有林（ユキトリ沢林道）において、東北森林管理局林道プロジェクトチーム（以下、林道PT）と合同現地検討会を開催しました。

また、トラックトレーラの架装を手掛ける、宮城県宮城野区の株式会社サニックスの架装工場を視察しました。

今年で4回目の開催となつた現地検討会の参加者は、林道PTから9名、トラック協議会から11名、※カーゴテック・ジャパン株式会社（横浜市）から2名、アームローダー販売株式会社（福島市）から1名、宮城日野自動車株式会社古川営業所から1名、N J 素流協から2名の合計26

名でした。

* [カーゴトック・ジャパン株式会社]

横浜市を拠点にヒアブ社製品の輸入元として知られています。

特になじみがあるのが林業用グラップル「HIAB／LOGLIFT」です。東北に占めるシェアは80%となっています。また、東北を2分割して、北を岩手県の東北ローダ販売株式会社、南を福島県のアームローダー販売株式会社が代理店として、ヒアブ社製品のアフターサービスを行っています。

今回は、東北の原木運送の現状確認と、グラップルの取り扱いについて講義いただきました。

[現地検討会]

丸太輸送の効率化として、フルトレーラ・セミトレーラ対応の林道施策について、かねてから、東北森林管理局に要望書を提出していました。そこで、東北森林管理局では、旧林道「2種林道規格」を「1種林道規格」にする新設工事を、青森県六

ヶ所村と宮城県白石市の2カ所で施工しました。

この林道の完成を機に、今回の会場となつた宮城県ユキトリ沢林道において、フルトレーラとセミトレーラ2台を実走させ、林道の出入り口の内輪差、林道S字カーブ、トレーラ同士のすれ違い、丸太の積込み場所などについて検証と意見交換を行いました。

最終地点をロータリー式に変更し

た点が一番のポイントで、一般的な円型のロータリーではなく、ローマ字のPに近い形になつているため、直進して内輪差を見ながら走行するだけでよく、ハンドルの切り返しが以前より少なくなり、ドライバーにとつても「優しい林道」に設計されています。

また、従来、林道終点でのUターン場所の設置が課題となっていましたが、一方通行にすることで、「方向転換（後退のわざらわしさ）」や「すれ違いの待機待ち」などが時間的にも軽減されます。試験的ではあるものの、今回の林道が施工されたこと

の意義は大きいと思われます。

ンテナ／カーゴなど)・製作、車両(ボディ)のメンテナンス塗装、宮城県の原木車に見られる「アオリ」の制作などを行つている企業です。

荷台のフローリングはアピトン材

(南洋材)が使われていて、マレーシア、インドネシアから輸入していることです。特徴は「強度」、「耐久性」、「耐水性」に優れ、低コストも相まって多く使われているとのことです。



車両のすれ違いを検証します



現地検討会の様子



㈱サニックス視察の様子

宮城県宮城野区にある株式会社サニックスの架装工場を視察しました。社員数は45名で、特殊車輌の設計(コ

ラミネート材があることで、サンプルを見せていただきました。竹を縦割りにし接着・圧縮したLVL

風なもので、九州で作られていることですが、竹の特性で、古くなると「さざくれ立ち」が起きてしまう所が難点だが、安価で作れるため代用できるとのことでしめた。

原木車の納期は2年待ち（今頼んでも2年待ち）、平ボディは数か月で完成するとのことで、今注文すると今年度中に納めますよ！と説明がありました。

また、輸送業界において、24年問題といった複雑な節目の中ですラック架装の状況変化を共有し、原木トラックの開発にご協力いただくよう要望しました。

今回の視察にご協力いただいた皆様に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

お知らせ

秋田県で「第5回スギ高樹齢原木展示即売会」

【開催日】
11月21日（木）
【視察先】
株式会社川井林業
大型新設工場・広葉樹市場視察

令和6年度の第1回
林業経営講座を開催します!!

N J 素流協営業企画部
019-1655217227

この展示即売会は、秋田県銘木センターの「第30回東日本銘木展示会・初市徳市」と併催されます。今年もたくさんの組合員様からの出品をお願いしたく存じます。詳しくは、別途ご案内いたしますので、営業企画部までお問い合わせください。

スギ高樹齢原木展示即売会が、令和7年1月24日（金）に秋田県木材産業協同組合連合会の主催で開催されます。

零石工場 第2工場
・岩手県森林組合連合会
盛岡木材流通センター
広葉樹記念市

内容の詳細、参加申し込みにつきましては別途案内をご覧ください。
皆様の参加をお待ちしております！

製材所で不足している丸太のアンケートを実施中!!
ご協力をお願いします

組合員向けに、製材所で不足し

ている丸太の、工場毎の樹種・径級・長級毎のアンケートを実施中です。是非ご協力を願いいたします。

よろしくお願いします



営業職員を募集しています

ノースジャパン素材流通協同組合では、営業企画部職員〔2025年3月大学卒業予定者（林学系・建築系）〕を募集しています。

出荷調整、出荷材の規格・品質検査、情報提供のための市況調査、販売先や組合員への巡回訪問などを担当していただきます。

お知り合いなど、どなたかご存じの方はぜひご紹介ください。

経営企画管理部

☎ 019-652-7227

ちょっと気になる木の話

100

ちょっと気になる木の話 100話記念 11年前からの変わらぬ思い

— 今の日本は、
久しぶりの緑の列島 —

海外から日本に来る観察者の最初の感想は、「飛行機の窓から見る風景は緑だけで本当に緑の列島である」「日本のどの地方にいっても水田の緑と周りの木の緑で一杯である」と言う。「その上で、それなのに何故、海外からこんなに木材を輸入しているのか?」自国の緑を温存するためか?」と聞かれる。また、喫茶店では、すぐにコップに水が出てくる。しかし、海外から来た人は飲まない。水は料金がかかると思つていて。飲める水をタダで出す国はない。日本には水というメニューはお品書きには無

い。それだけ、緑の森林に育まれた水の豊かな国は無いのである。現代日本人にとって、水と空気と緑はタダだと感じている。

しかしながら、古くからそだつ

たのだろうか? 古い日本の浮世絵や絵図にはハゲ山が多く描かれて

いる。京都の都では燃料用に松の根すら掘るのも禁止した程である。

自国の資材が無い時代、建築をはじめて日用品からエネルギーに至るまで、主たる資材は木材だったの

である。現存する城や社寺仏閣をみても木造だが、その材料は木のみである。現存しない城や社寺仏閣に使われたその量は大変な量で

ある。当局も関わっているものと

して今年は式年遷宮があつたし、

名古屋城の本丸御殿の復元も行わ

れているが、その材料を供給して

いる木曽地域であつても、戦国時

代には「尽山」となり、宝永5年(1708年)には、後に「木一伐れことになつていて。島崎藤村の「夜明け前」もここから始まつてている。

第2次世界大戦の後も、山が荒廃し災害が頻発しており、全国植樹祭の始まりもここにある。「國破れて山河あり」とよく言うが、「國破れて(緑豊かな)山河なし」だつたのである。その後の国民一体となつた植林活動や治山事業によつて、現在の緑の列島は完成し、しばらく日本の歴史上になかつた緑豊かな山の姿になつていて。

この文章は、会計検査にかかる出版物で、日本の行政のあらゆる分野の方に、日本の森林・林業・木材産業を理解していただけるようとに期待して記述したものである。

前段、飛行機から見る緑の列島は、急激なインバウンド増加の中、全世界の人々が、今日日本で実感していると感じている。地球温暖化防止に向け、国産材資源活用が叫ばれる中、外材輸入に携わる人も、何故外材を輸入し続けるのか?自分の仕事は地球温暖化防止に本当に役立つていてのか?是非読んでいただき、思いをめぐらしていただきたい強い思いです。

※鈴木信哉「木の文化の国 日本と薪炭産業」

(株)建設物価サービス 月刊会計 検査資料2013年11月号より)

令和6年10月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	12,536	102.2	101.8	12,369	67.4	168.6	24,905	81.4	126.7
カラマツ	4,703	95.8	78.1	184	142.5	40.4	4,888	97.0	75.5
アカマツ	2,512	176.9	166.2	116	476.0	136.0	2,628	181.9	164.6
その他	0	0.0	*	150	87.0	11.6	150	43.9	11.6
合計	19,752	105.3	99.5	12,818	68.7	139.7	32,570	87.0	112.2

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	3,498	94.5	41.1
カラマツ	5,792	143.4	122.5
アカマツ	1,194	373.6	65.3
その他	750	115.0	129.7
合計	11,235	129.0	71.8

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

樹種	今 年 度 累 計			
	合板・ LVL用 (m³)	製材・集成材 ・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	85,631	90,697	176,328	30,101
カラマツ	36,553	1,668	38,221	28,059
アカマツ	16,290	962	17,252	7,655
その他	199	1,026	1,225	3,963
合計	138,673	94,352	233,025	69,778
目標達成率(%)	57.8	53.9	56.2	51.7
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

【令和6年11月の需給動向】

- 合板製品の値下げが加速している。この影響が原木価格に反映されることも今後考えられる。
- 青変菌の心配も無くなり合板用アカマツ原木の引き合いが強まる傾向。
- 製材用スギ(特に3m材)や広葉樹の引き合いが強まる傾向。

その後、名取市に海岸防災林再生プロジェクトを実施し、100haの造成を行ったところである。東南アジアでも多くの植林活動を実施している。感謝に堪えました。ご冥福をお祈りいたします。

次は、服部幸應(ゆきお)氏である。服部栄養専門学校の校長で、本当に急死だつた。テレビの「料理の達人」とかも有名人である。付き合いは、特用林産対策室時代のときのこ料理コンクールであった。会場で、きのこ料理を作り、審査していた。高校生とかもいたが、先生の姿

最大は、東日本大震災のすぐ後である。被災した仙台の海岸林の復活をNGOと一緒に手伝いして、復興の役に立ちたいとの申し出だった。とりあえず、関心のある人を乗せた飛行機をチャーターして空から現地を見せる行動を計画し、実行した。

その後、名取市に海岸防災林再生プロジェクトを実施し、100haの造成を行ったところである。東南アジアでも多くの植林活動を実施している。感謝に堪えました。ご冥福をお祈りいたしました。

題名とは少しズレたが、桐振興に熱意ある三島町に、第2のふるさととして思い入れを持つつつ、台湾・中国の関係もある中亡くなつたテレサ・テンさんのご冥福をお祈りいたします。

ある中亡くなつたテレサ・テンさんのご冥福をお祈りいたします。

耳からウロコ

計報に接して

—林業との関係は?—

見るところみんな感激して、一生懸命頑張つていたのが思い出される。ご冥福をお祈りいたします。

最後は、かなり前の計報だがテレサ・テンさんである。福島県三島町役場の課長と東京のデザイン専門学校の女性校長さんと面会に来られた。需要が低迷している桐を新しい用途で売り出したいとの小規模援助案件の相談を受けたりしていったが、ある時、海外の人々の研修場所を探しているとの相談もあり、不要の土地となっていた福岡署の土地を紹介し、現在は、オイスカの西日本研修センターとなっている。長いお付き合いだったが、最大は、東日本大震災のすぐ後である。

被災した仙台の海岸林の復活をNGOと一緒に手伝いして、復興の役に立ちたいとの申し出だった。とりあえず、関心のある人を乗せた飛行機をチャーターして空から現地を見せる行動を計画し、実行した。その後、名取市に海岸防災林再生プロジェクトを実施し、100haの造成を行ったところである。東南アジアでも多くの植林活動を実施している。感謝に堪えました。ご冥福をお祈りいたしました。

春町の個人の家で、駆走したりした時の写真であった。確か、ローカル線の駅にたたずむテレサ・テンさんの姿を写したものであった。今、三島町のHPを見ると、産業振興課とは別に、特命担当課の名前がある。特命担当課の業務は、林業振興、会津桐振興、治山・林道である。やっぱり、桐と林業に気持ちが入つているな!!